

平成27年度 知事と部課長及び地方公所長合同会議

知事あいさつ要旨

平成27年4月10日（金）県庁行政庁舎 2階講堂

みなさん、こんにちは。ようこそお集まりいただきました。

震災復興計画に定める再生期も、2年目を迎えました。今年度も引き続き、被災者の方々の生活再建を最優先にしつつ、発展期に大きな実を結ぶよう、創造的復興を実現するための種を蒔き、大きく育てていく大切な時期であります。今年度、予算計上した事業にしっかりと取り組み、復興を着実に進めてまいりましょう。

本日は、年度当初に際しまして、主に、幹部職員として仕事にあたっての心構えについて、私の考えを披瀝したいと思います。

先月、25日に政策課題講演会が開催されまして、寺島実郎さんにこの場所で講演をしていただきました。多くの皆さんも聴講されたことと思います。

その講演の最後に、寺島さんから、「4月3日より毎週金曜日午後9時にBSイレブンで『現代ビジネス講座』という番組がスタートとし、自分がメインキャスターを務めることとなった。第1回目は、ソフトバンク株式会社代表取締役の孫正義さんとの対談があるので、ぜひ見ていただきたい」というお話がありましたので、私も録画をして見たわけでございます。

その対談における孫さんの話に、私、大変感銘を受けまして、腹にストンと落ちる思いがしましたので、その話をもとに、私の考えを皆さんにお伝えしたいと思います。

孫さんは、その対談の中で「自分は、100年先を見据えて経営をしている。そして、100年後をどうするのかではなくて、100年後にどうなっているのかを見据えて、そこに向かって先に手を打っている」という趣旨のお話をされておりました。

どんなに力のある人であっても、100年先の世界を自分の力で変えること

は不可能でございますので、100年先にこういう世の中になっているんだろうということを見据えた上で、それに合わせて早め早めに手を打っていくということが孫さんの経営の考え方だということでございます。

孫さんは、日本の高校を中退し、アメリカに留学している時に、1冊の科学情報誌を手にし、その中に掲載されていた指の先ほどのi8080（インテル8080）コンピューター・チップの拡大写真に目を奪われ、その衝撃がきっかけとなって、コンピューターの世界に入ることを決意したそうであります。

まだ、大型の汎用コンピューターが圧倒的に主流だった時代に、今後はパーソナルコンピュータ、パソコンとソフト中心の社会になると感じたそうであります。

その後、ソフトバンクという会社を作って、ソフトバンクを中心とした会社の隆盛はみなさんご存じのとおりであります。

番組の中で、孫さんは、100年後のエネルギーを考えると、間違いなく原油や天然ガスは大きく目減りをしている。よって、いつまでも原油や天然ガスに頼ったエネルギーの供給はできない。100年後は再生可能エネルギーが主役の座を取って代わるのではないか。その頃には電力網が世界中の至る所に張り巡らされているだろう。常に地球上のどこかで太陽が照り、風が吹いているわけでございますので、100年後の世界は再生可能エネルギーによって産み出された電力が、世界中の送電網を通して供給されるようになってきていると思う。これが現在世界中の光ファイバーが海底ケーブルでつながっているのと同じ考えだと。というような話をされていたわけです。

今は海底ケーブルであちらこちらつながっておりますので、どこか一つが切れましても必ず情報は行き渡るようになっております。これがまさにインターネットでございますが、それが同じように電力でも起こるのではないかというような予測をされていたというわけであります。

世界中の争いの多くは、突き詰めればエネルギーの奪い合いが原因であります。今までのエネルギーは原油であり天然ガスでありました。世界中が再生可能エネルギーによって電力供給できるような世の中になれば、醜い争い事も減ることになるでしょうから、大変夢のある話であります。

孫さんは事業家としてすでに行動に移されておまして、インドでの事業に投資を行っておられます。インドは再生可能エネルギー事業を積極的に国とし

て進めておりました、例えば、太陽光発電につきましては日照時間が日本の倍ほどありますことから、石炭による火力発電よりも、政府の補助金無しで既に単価が安くなっていると。太陽光発電のほうが、単価が安くなっているということでもあります。しかも政府の補助金無しでそうなっているということでもございました。

また、100ギガワット、原発100基分の太陽光発電設備を導入して、隣国へ送電する構想も披露をされておりました。

送電する距離が長い場合は、電気抵抗等で電力の損失が大きくなるという問題はありますが、今後の技術革新によって、こうした枠組みによる再生可能エネルギー社会が実現するのではないかとということでもありました。

こうした長期的な視点をもって経営をする点を我々は見習わなければならない、強く感じた次第であります。

実は私の尊敬する松下電器、パナソニックの創業者、松下幸之助さんも今から100年前の1915年くらいに路面電車を見て、電気の時代が来ることを予見し、家電業界に身を投じて、現在のパナソニックができあがったわけです。素晴らしい経営者は、そのような将来を見通す優れた感性をお持ちなのだと思えます。

孫さんは、中国の情報技術関連企業グループのアリババグループに出資をいたしまして、アリババがアメリカで上場したことによって、巨額の富を得ました。一方で、平成25年に買収いたしましたアメリカの携帯電話会社は、経営の不振が続いていると言われております。しかし、孫さん自身は、100年後の大きな目標に向かって進んでいるので、多少のぶれ、多少の失敗は気にとめないと言っておられました。本当かどうかはわかりません。おそらく相当気にはされているんじゃないかと思えます。

松下幸之助さんや孫さんのようにはなかなかないかもしれませんが、県庁という組織の中で人の上に立つ私たちもそういった点を見習って、それぞれの司（つかさ）、司（つかさ）で、今、目の前にあることだけで汲汲（きゅうきゅう）としているのではなく、それぞれの立場で、将来はこうなるであろうと未来像を描いて、そのために、今何をしなければならないのかを考えることが管理職として私は非常に大切だというふうに思います。

国からいろんな報告を求められたり、また、本庁からいろんな報告を求められたり、やるべきことは多々あつてですね、恒常業務をこなすだけでも目一杯だということもわかりますが、それは皆様の部下がそうなのであって、ここにおられます皆様はですね、そうしたことだけではなくてやはり将来に向かってこうしなければならない。こうなるであろうということを考えながら仕事をぜひしていただきたい、このように思うのであります。

村井はどうだということですが、私はこの国の厳しい財政状況を考えますと、間違いなく小さな政府、大きな地方政府、つまり、道州制になる時代が来ると考えております。

皆さんの中には道州制に懐疑的な方もおられると思います。また、道州制に否定的な市町村長もたくさんおられるわけであります。

しかし、改めて、松下さんや孫さんのような視点で考えたならば、道州制にしなければならないのではなくて、道州制になるのだということを見越して、他の自治体よりも一歩進んで準備を進めておくことが東北における宮城の役割だというふうに思います。

元に戻す復旧だけでも大変な中で、創造的復興を掲げて各種事業に取り組むには、非常に大きな力が必要であります。一つ一つの事業の意義が、将来の東北の発展の礎になると考えれば、やりがいが出てまいります。宮城県を持つポテンシャル・役割を自覚して、大きな目標に向かって今年度も頑張ってまいります。

次に、皆さんにお願いしたいことを二つお話いたします。

まず1点目は、「イクメン」、男性の育休の取得促進についてであります。私は、少子化への対応も、まずは県組織が率先して取り組んでいく必要があると考えております。そういった意味で、保育所を県庁内に作ったり、あるいは18階に子供の遊べるスペース、あるいは1階に授乳スペース、こういったものを作りました。先月、第3期宮城県特定事業主（ぬし）行動計画を策定し、その目標数値として男性の育児休業取得率を定めました。

平成25年度の宮城県職員の男性の育児休業取得率は4.1%ですが、平成32年度までに15%にしたいと考えております。この目標達成には、職

場全体の理解とともに、特に、ここにおられます皆様の役割が非常に大きくなるわけであります。今回策定した計画では、新たに育児参加計画書の提出義務化を定めましたので、管理監督職員の方々は、休暇・休業制度について理解するとともに、男性職員の育児プランの確認や、休暇を取得しやすい職場環境づくりに努め、男性職員の育児参加を促して欲しいと思います。

「休んでいいよ」では休めないものであります。皆さんもきっと若い頃そうだったと思います。皆さんは部下にですね、「休みなさい」と、このように言うて欲しいということであります。わかりやすく言うとそういうことです。

もちろん、人に言うだけではなくて、自ら子供を作ることも頑張るって欲しいと思います。

2点目は、危機管理体制についてであります。災害は、いつでも起こりうるという危機管理意識を常に持っていることが大切であることはいうまでもありません。

毎年、この場で言うんですけども、特に、年度初めは異動等により対応能力も脆弱になる時期であります。ぜひ、今一度、災害発生時の初動対応や手順の確認などを適切に進めていただき、災害が発生した場合には、迅速かつ確実に対応できるよう危機管理体制の確保について万全を期するようお願いいたします。

本日お集まりの幹部職員の皆さんには、常に職場の士気を高めながら、併せて応援職員の方々も含めて健康管理にも十分にご留意いただき、我々県庁組織の総力を挙げて、県民の皆様に復興の成果を目に見える形でお示しをし、創造的復興を実現してまいりたいと思います。

今年も、「前向きな行動力」「明るさ」「根性」「知恵」「風通し」を大切に、日々の仕事に取り組んでいきましょう。

皆様のリーダーシップに心から期待をしております。

以上です。終わります。

(了)